

テーマ

小児科 平成27年度漢方医学講座・臨床講座

# 「小児の漢方治療」 ～困ったときには漢方薬～

(医)コスモ会 あらいクリニック 院長

新井 勝

(平成28年1月17日収録)

私は埼玉県秩父市で開業しています。漢方専門医ですが元々は小児科医です。開業してからは小児科も内科も診ていますが、漢方はとても重要で有用な手段です。開業医はこういう考え方で治療しているということを知っていただければと思います。

## 概要

### (1) 漢方について

漢方全般についてのお話をします。

### (2) 漢方薬の飲ませかた

小児の漢方で問題になるのが、味が悪い、飲ませ方が難しいということです。このような理由だけで漢方を出さない先生もいらっしゃいます。その辺を少し工夫してみました。

### (3) 小児の体質と漢方薬

最後に、実際の症例をみながら、小児の体質によって漢方薬を使い分けると有効性が高まるという話をしたいと思います。

## 漢方について

### 〈漢方はよくわからない〉

漢方の使い方がわからないという先生が少なくありません。一方、8割

から9割の医師が漢方薬を処方した経験があるそうです。しかし継続的には使えない。ある大学病院小児科の先生は、漢方薬を処方してはみるけれども、効かないと感じたら、次はもう絶対出さないとっていました。西洋医学的な発想ではそうなるのかもしれませんが。しかし、これは非常にもったいないと思います。

漢方を使えない第一の理由として、大学で漢方医学を教えられて来なかったという事情があります。また、医師になってからも、患者さんに漢方的な診断の上で漢方薬を出すという経験が少ないのだと思います。大学では西洋医学が中心です。漢方は「データがないから信用できない」とか、「安全性が不明だ」とかいわれます。また漢方処方には独特の味があるので「味が悪いから飲めない」ともいわれます。漢方医学的な概念が理解できないし、そもそも漢方用語の漢字が読めない。そういうところから毛嫌いされてしまう部分もあると思います。

### 〈診療で行き詰まることはありませんか〉

実際の診療をするなかで、診断治療に行きづまることはありませんか。例えば、こんなときです。

不定愁訴の多い人。頭痛がして、肩こりがして、めまいがして…。話が長くて、聞いていると、いつまでもしゃべり続ける人。診察が気に入らなくて怒り出す人。話を聞けば聞くほど何か問題なのかわからなくなる。そうするとドクターの頭の中では「精神科か心療内科にいつくれないかな」「うちじゃ面倒くさいな」と考えたり、患者さんに対して「ああ、それはカゼでしょう」「歳のせいですね」「自律神経失調症ですよ」と言ったりするかもしれません。

まさに、そういうときに、便利で有効なのが漢方です。

### 〈こんなときには漢方を〉

■「なんとなく体調が悪くて、いつもだるい」と訴えるような人

■西洋薬を処方すると「これを飲むと頭痛が起きる」「これを飲むと胃がおかしくなる」などと言われるため、処方する薬がなくなるとき

### ■ウィルス性の感冒の人

カゼに抗生物質は効きません。また、いわゆるカゼ薬は、カゼを治さない薬、症状を緩和するという目的以外には必要のない薬です。急性のウィルス性感染症には漢方薬が即効することが少なくありません。

### ■経過をみるためのつなぎの手段として。

これは結構、意味のあるものだと思います。経過が長くなってくると、例えば薬を「一週間分処方するから、また来てね」と継続させることができます。そうしないと別の病院に行ってしまう診療が途切れて一からやりなおしになるかもしれません。とりあえずの処方ではなくて、漢方診断に基づいた処方をすれば納得してもらえるでしょう。医者患者間の信頼関係を確保するためにも漢方は有効だと思っています。

### ■体質改善したいとき

多くの患者さんは、漢方薬は長く飲まないといけないというイメージを持っています。一方、西洋薬の長期投与は体質改善と意味合いが異なります。カゼを引きやすい体質を改善するのは漢方が得意とする分野です。

## 〈漢方薬を使うときのポイント〉

### ■西洋医学的診断を忘れない

我々は西洋医学中心の保険診療の中で診療しています。西洋医学的な発想で診断しないと保険診療になりません。西洋医学的な診断あるいは臨床的な状況判断は、しておかなくてははいけません。ですから必要な検査は必ずしておいた方が良いです。処方薬は漢方薬であっても、西洋医学的な診断プロセスはぜひ忘れないようにしてください。